



水田用に利用されている上下大迫地区の用水施設

水田の水不足による植付不能や生育被害面積と改善指導の状況について。また、整備地区の上下大迫

団地は水利費が10a1万円位で農地流動化の障害と言われる。恒久的な改善策が急務と思うが、考えを伺います。

農業用水  
高嶺議員

水不足田への支援は  
関係農家と協議

町長

今年の干ばつによる植付不能水田は217a、鋤き込みの水田31a、水不足と思われる水田が26haほどありました。

水利の利用について相談のあった個所においては用水、排水等の有効利用の方向で指導してきた。

上下大迫地区の水不足解消については、補助事業を導入しても50%ほどの地元負担が生じるので、関係農家と十分協議検討しながら取り組んでいく必要があると思っております。

林業振興

川口憲男議員

里山整備で自然体験を  
適地あれば検討



町長

森林の果す役割は、水資源の涵養や、自然環境保全、国土保全、そして今日では地球温暖化防止と多様な機能を持つている。町では、除間伐や林道整備等、これまでも多くの施策を講じ森林の整備が図られているが、里山など、まだ手つかずの状況にある。次の点について考えを伺いたい。

現在の里山の広葉樹を整備し、森林浴や森のツーリズムが出来る環境づくり、及びカブト虫やクワガタが住む自然体験のできる森づくりの推進について。



自然体験のできる森づくりの推進が望まれる

このうち、適木の観点に立ち、進められる地域があれば検討を進めるように新町につないでいきたいと思っております。

一般質問

今回の一般質問は9月13日に行われ2人の議員が登壇しました。質問と答弁の要旨をお知らせします。

農村交流

高嶺虎男議員

グリーンツーリズム事業の継続を  
合併後も実施



昨年のグリーンツーリズム事業で、じゃがいも掘りを体験する参加者(上場地区)

業であり、国県支援終了後は、年間メニューを設定し町内宿泊業界を中心にして受け入れ窓口と専任体制を図り、鶴田方式

15年より国県の支援で取り組んだグリーンツーリズム推進事業は、本町の自然と文化資源を

生かした都市と農村交流活動として、参加者から高く評価されております。これは担当課の努力と町内関係機関の協力が実ったものであります。時代の潮流である農山村滞在型体験交流事業が過疎と高齢化の町に活力を与え、産業経済の浮揚事



町長

のグリーンツーリズムの立ち上げを望むが、町長の考えを伺います。

新町移行準備の協議では、合併後もグリーンツーリズム事業は新町の重点事業として実施していくよう協議されています。合併する3町の特性や資源を生かしたメニューを開発しながら実施されるものと思っております。受入窓口や専任体制については、将来的には農家での民泊や旅館等の宿泊事業者、農林漁業団体等が窓口になり民間主導に移行する方向を考えているが、当分は行政が窓口にならないかと思っております。

ここを、ただしました